

少し新しい緑内障のお話をしましょう

魚住眼科医院
魚住 博彦
若松区本町二丁目 3 27
TEL . 761 - 3090

平成 12 年から 13 年にかけて、国内で大規模な緑内障の疫学的調査が行われました。岐阜県多治見市で 40 歳以上の約 5 万 4 千人に対して約 1 万 7 千人が検診を受け、この内追跡調査が可能であった約 4 千人に疫学的調査が行われました。昭和 63 年の調査では、40 歳以上の約 30 人に 1 人が緑内障であると言われていましたが、新しい調査結果では約 17 人に 1 人の割合で緑内障であると修正されました。また全緑内障のなかで「正常眼圧緑内障」{眼圧が正常範囲にあるのに緑内障状の視神経や視野（ものの見える範囲）に異常が見られる病気}が占める割合は、60%以上になる事も解りました。さらに 70 歳以上になると、この正常眼圧緑内障の割合は 2 倍に増えるとも報告されました。

いままで一般に緑内障といえば、眼圧が高くなる事で、吐き気や頭痛をとともなう激しい痛みがあり、視野が狭くなることで、失明に至る病気であると思われていました。しかし、ここでは眼圧は正常範囲で、痛みもないのに、いつの間にか少しずつ視野が狭くなり、失明してしまうという緑内障が、ことに日本人には多いと報告されているのです。緑内障は稀な病気ではなく、すぐ側にある、ありふれた病気なのです。

なぜ緑内障になるのか、どうすれば緑内障を完全に治せるのかは、未だはっきりとは解っていません。しかし点眼薬や手術で少しでも眼圧を下げたり、視神経の血液の流れを改善したりする事で、視野が狭くなることを防げるのではないかと考えられています。

緑内障の治療薬はここ数年で開発が進んでおり、点眼回数も一日 1 回になり、患者さんの負担も楽になってきています。また検査機器の改良も進み、最近では視野検査が数分間で出来る機械も出来ています。

まず 40 歳を越えたら一度眼科を受診して、緑内障であるかどうかを検査し、もし緑内障であれば、少しでも早く治療を開始しましょう。早期発見と治療の継続で、視野の狭くなるのを留め、快適な視界を保った人生を送ることが出来るのです。最寄りの眼科をお気軽に御受診ください。